

第61回三島市美術展 入賞者一覧

平成25年6月23日現在

【日本画の部】

	目録No	氏名	題名	
市長賞	10	露木 富江	花菖蒲	F30号
議長賞	15	山口 育三	幽木(ハゼの木)	160×90cm
教育長賞	5	山田 淳子	立葵	F50号
実行委員長賞	12	渡邊 千鶴子	秋海棠	F30号
舜堂賞	2	杉山 清弘	蓮	F20号
奨励賞	14	山本 譲	御神馬	M20号
奨励賞	18	石崎 恵子	樹	20号
市民選賞	10	露木 富江	花菖蒲	F30号

〔審査員講評〕

昨年よりはバリエーションが乏しく感じられたが、レベルの高い作品が多いと思われた。市長賞の「花菖蒲」は色相が深く根気と懸命な描き込みを評価した。

議長賞の「幽木(ハゼの木)」は描き込みが少し荒く感じたが、画面の上部の黄金色が引き立ち力強さを感じた。モチーフとの出会いの感動をどう表現創造するかだと思われます。しみじみとした味わいのある作品をこれからも期待したい！

審査員 大場 茂之

本年度の一般的な傾向として、例年にも増して芸術性に富み、老練な技を感じさせる作品が多いように感じた。一方では、小品ながら、テーマに向き合い、表現に大変な工夫がなされた作品もあった。

また、その中には大きな画面で表現できたら大変迫力のある作品になったであろうと思われる作品も多かった。全ての作品について、今後の精進を期待する。

審査員 倉田 文昭

市長賞「花菖蒲」霧の中、菖蒲の花が心の花として染み込む。
議長賞「幽木(ハゼの木)」背景の雲の流れとハゼの木が深山へ誘う。
教育長賞「立葵」凜とした立葵が銀鼠の背景に清々しい。
実行委員長賞「秋海棠」難しい花姿を心に響く作品に昇華。
舜堂賞「蓮」蓮の華にそそぐ雨の線と水玉が瑞々しい。
奨励賞「御神馬」古式伝統イメージを現代的で力強い。
奨励賞「樹」老木に新芽の緑青が際立ち活々と美しい。

審査員 松山 英雄

【洋画の部】

	目録No	氏名	題名	
市長賞	15	小野 登志子	私の好きな物	F50号 油彩
議長賞	55	塩川 晴美	心象	F80号 油彩
教育長賞	43	塚本 有美	点と線の蠢動	F80号 アクリル
実行委員長賞	22	山本 邦浩	明日へ	F50号 油彩
舜堂賞	9	村松 崇	牛骨を持つ女	77×59cm アクリル
奨励賞	5	潮木 正広	修善寺山里実りの頃	F50号 油彩
奨励賞	11	安藤 幸子	マサトとあっちゃん	F50号 油彩
奨励賞	35	小幡 悦朗	びゅうお	F80号 油彩
奨励賞	47	西川 泰久	古城の朝	F50号 油彩
奨励賞	48	西川 ナヲ	バラの誘惑	F50号 油彩
市民選賞	32	鈴木 恵三	雪の白川郷	20号 水彩

〔審査員講評〕

全体的に具象作品が多くサイズも小さな傾向になった。市長賞の作品は画面構成がしっかりし、色彩のハーモニーが美しく描写が的確だ。受賞作品にはそれぞれ今後に期待がもて、印象的だった。

出品作には思いを自由に表現しているが、もっと深く内容と色彩表現をつきつめて描き込む姿勢を望みます。小品全般には絵画として物足りなさを感じずるものがあった。

審査員 小池タケシ、日吉 薫、湯浅 猛

【彫刻・工芸の部】

	目録No	氏名	題名	
市長賞	10	伊藤 善健	泥絲雲流文壺	陶芸
議長賞	5	長澤 武司	桜月夜	鍛金 彫金
教育長賞	20	南波 壽子	信楽自然釉大皿	陶芸
実行委員長賞	2	池田 マサヨ	ノルウェーの夏	布アップリケ
舜堂賞	22	風間 正博	三島手皿大小台座	陶芸
奨励賞	9	風間 裕子	一閑張	和紙
奨励賞	13	山口 誠二	晩秋の野鳥	紙粘土工芸
市民選賞	10	伊藤 善健	泥絲雲流文壺	陶芸

〔審査員講評〕

彫刻・工芸部門では前回と違った趣きで、皆さん自分なりに考えての展示方法だったり、細部にまで手をかけてあったり長時間の構想から作り上げられるまでの努力が感じられた。また、色彩豊かな作品で手法もいろいろあり目をみはるものがあつた。三島という地域で象嵌技法が目立ったのも一つの特徴であつた。三人の審査員の意見が一致したものが賞に入った。

審査員 近藤 宏克、杉山禎瑠子、福地 孝行

【写真の部】

	目録No	氏名	題名
市長賞	52	藤原 英修	敗戦
議長賞	15	鷺見 孝枝	バガンの大地
教育長賞	65	秋山 栄	機関士
実行委員長賞	53	古澤 久志	天空の里
舜堂賞	48	金子 榮治	ともだち
奨励賞	3	萱沼 康	秋澄む
奨励賞	19	鈴木 由美子	晩秋
奨励賞	34	渡邊 修一郎	夕照の路
奨励賞	39	長島 弥	少年時代
奨励賞	47	関根 絹子	チェコの母子人形
奨励賞	57	今井 保俊	西日の頃
奨励賞	66	笠井 邦治	蒼天
市民選賞	55	今井 泰隆	波演

〔審査員講評〕

毎年大いなる期待感を持って、審査にあたっていました。今年は作品出品数も多く、上位作品の表現が良くレベルアップしているように感じました。苦労したり感動の被写体や作者の主張が明確であったりした様に思いました。選外の作品の中にも審査内に入った作品も多くありました。

審査員 遠藤 行保

デジタル時代に入り画像ソフトを使用してプリントする作者が多いと思いますが、今回上位入賞の中でもレタッチの問題でマイナス点に評価された作品がありました。レタッチはほどほどに！ また、三島市内で撮影された作品が少ないと思います。まずは自分の身の周辺で作品を作ってほしい。

審査員 大角 勝

年々、プリントの質が上がってきていると思います。モノクロプリントのきれいな作品も今年はあり良かったと思います。

毎年感じるのですが、手なれた作品が多く、もう少し感覚的な作品があってもいいかなと思う。もっと作者の感性や個性を強く感じさせる作品が出てくることを期待したいと思います。

審査員 堀部 清

【書道の部】

	目録No	氏名	題名
議長賞	40	中村 玉操	人はいざ
教育長賞	44	加藤 里英	謝朓詩
実行委員長賞	29	河野 浩美	天の原
舜堂賞	14	杉本 敏子	常建詩
奨励賞	6	笹津 治子	響
奨励賞	26	佐々木 朋子	夏の夜は
奨励賞	41	土屋 玉楓	白鳥
奨励賞	46	高田 杏華	あしべゆく
市民選賞	39	米津 尚堂	天地玄黄

〔審査員講評〕

努力の跡が窺える作品が多く見受けられました。ジャンルを越えた、古典に立脚した作品づくりを深め研鑽される事を望みます。

更に観る人の心に訴える作品を発表する事が大切ではないでしょうか。

審査員 鈴木 玉翠、西嶋 恵舟、米津 菊川